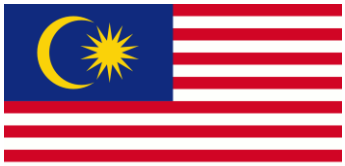
あ・そうかい有志ペナン旅行記

Ｆ班　　田島　潤



１．はじめに

飛行機を降りて搭乗ゲートへ差し掛かると、南国特有の熱気が差し込んでくる。ここはマレーシア、クアラルンプール、通称ＫＬと略す。2 月 14 日の早朝に新百合ヶ丘を発ち、10 時半のマレーシア航空でペナン島へ向かうためＫＬで国内線に乗り換える。一旦入国手続きを経て約２時間の乗り換え時間を過ごし、８時 15 分にＫＬを発つマレーシア航空に乗り換え、ペナン空港に到着したのは現地時間で９時を少し過ぎていた。ほぼ丸一日の行程である。

今回、あ・そうかいのメンバーでペナンへ旅行することとなったのは、ヒョンなきっかけであった。あ・そうかいのメンバー、丸岡さんはもう７年も前から日本の冬期を南国で快適に過ごそうと、毎年 11 月から３月の間ペナン島でのロングステイをされている。春から秋にかけては麻生区の自宅に戻って、あ・そうかいの活動にも積極的に参加されている。昨年の夏、あ・そうかいでゴルフのショートゲームを楽しむ会、通称パーサン会のメンバーで暑気払いを行った。以前から丸岡さんは、あ・そうかいのメンバーに、自身のペナンでの生活ぶりが、日本よりはるかに安い経費で生活をエンジョイできるとして、ペナン生活の実態を紹介する機会を模索されていた。パーサン会の暑気払いの際、お酒によるノリも加わって、ペナンへ旅行を具体化することになった。

２．企画

ペナン旅行を企画するに当って、次のことを考慮した。

- ◆ 安全第一を期し無事に帰宅すること。
- ◆ 予想される参加メンバーの大半が年金生活者であり、費用は出来る限り安く抑える。
- ◆ 各自それぞれの要望に応え、かつ楽しい思い出を残して終えること。

このため、企画段階で丸岡さんと数社の旅行代理店から見積もりを取り、JTB のエアー＆ホテル（エアホ）アウトレット、３泊５日の旅を採用した。価格は後段 費用の項目を参照願いたい。

この旅行を企画するきっかけとなったのがゴルフ仲間の集まりであったので、当然の如くペナンでのゴルフは外せない。実施する時期がおおまかにまとまったところで、ゴルフ仲間以外の、あ・そうかいのメンバーに当企画を紹介して参加を募った。その結果、参加メンバーはゴルフ組の植木さん、中島さんと田島，それ以外にペナン

の自然探索を志向されている井口さんと斎藤さん、観光を楽しみに参加された宮澤さん、それに加えて植木さんの奥様も参加されることとなって、総勢７名のグループツアーとなった。

３．アクティビティー

一日目

ほぼまる一日を機内で過ごし、夕食を乗り換えのＫＬ空港で取ろうと計画したのだが、入国手続きに時間を要したこと、国内線のロビーに適したレストランが無かったので、ホテルに着いてから夕食を、と考えていた。しかしペナン空港に着いたのが９時を過ぎていて、ホテルまでおおよそ１時間の行程を考えるとあまりに遅い食事となるため、迎えに来てくれていた丸岡さんにお願いして、ホテルへの途中で軽い食事がとれるところへ案内頂いた。丸岡さんのペナンでのお友達、Jamie の車と貸し切りミニバンの２台に分乗し、アジア特有の屋台へ案内された。夜も遅いのでビールと軽めの麺の夕食を取る。あっさり味の麺は皆に好評であった。フォーポインツバイシェラトンホテル（Four Points by Sheraton）にチェックインを終え、シャワーを浴びるともう 11 時を回っている。日本時間では12時を過ぎている。明日の活動に備えてベッドに入る。

二日目

ホテルの朝食は６時半からサービスが始まる。この時間ではまだ薄暗いのだが、食事を取っている間に少しずつ明るくなってくる。目の前にはビーチが広がり、海岸のヤシの木の間から朝日が昇り始める光景は、ペナン島のパンフレトの表紙そのものだ。

ホテル前の海岸での朝日

ゴルフ組は９時の Tee off に合わせて７時半にロビーへ集まった。丸岡さんと同じ様にペナン島でロングステイされているお友達の車２台に乗り合わせて、Kulim Golf & Country Resort へ向かった。このゴルフクラブはマレー半島本土にあって、ペナン島からは橋を渡る必要がある。本土とペナン島には２本の橋が架けられており、12 キロの長さの北側の橋を渡って行く。ちなみに南側の橋の長さはおおよそ倍の 24 キロ程だ。

Kulim Golf & Country Resort にて

マレーシアのゴルフ場ではメーター表示が主で、普段ヤード表示でプレーしている我々には多少戸惑いがある。ここはセルフプレーであり、最後はやはり自分の眼で感じ、確かめ、自己責任でクラブを選択しなければならない。植木・丸岡組、中島・田島組に分かれて２台のカートで一緒にプレーした。日本ではカートロードだけしか走れないが、東南アジアでは一般的にフェア

ウエーまでカートで走行が可能である。おかげで南国の暑さの中でも比較的楽に廻ることができる。18 ホールをスルーで回って、クラブハウスで少し遅めの昼食、ミーゴレンを食べて帰途についた。ホテルに帰る前にナイトキャップを入手した。マレーシアは回教国で、アルコールは日本ほど容易に手に入れることはできない。丸岡さんのお友達に紹介されたインド料理のレストランで、店の裏から用意されたシーバスリーガル１２年を購入して寝酒に備える。

斎藤さんと私は、ゴルフ組より少し遅い 8:15 時にホテルを出発、事前に日本で申し込んでおいたオランウータンサンクチュアリ見学ツアーに参加する。今回旅行の主目的のひとつは、オラウータンに会うことで、ツアーでその望みが一つ叶えられた。ツアーは日本語を話す現地の人のガイド、送迎、昼食がついて一人￥8.900、15:00 頃ホテル帰着で、結果的には我々二人にガイド一人、ドライバー１人で事実上マンツーマンツアーであった。

このオランウータンサンクチュアリはマレーシアに３か所ある施設のひとつ。湖の中の離れ小島にあり、船で渡る。ここには１頭のボスと２頭の大人の雄が構成するファミリーが生息している。お目当てのボスは年齢４０歳ぐらい、長い体毛に包まれた巨体は風格が漂い、まさしく「森の哲人」

オラウータンボス

（ちなみにオランウータンはマレー語で 森の人 の意）ガイドの話では 97 パーセントは人間と同じ能力を有し、違うのは 3 パーセントの字を書く能力部分のみということでした。オランウータンの後は近くにあるエコパークへ。ここでは熱帯に生息する動物や植物が見られ、マレー熊、ワニ（アリゲータ）、ニシキヘビ、世界最大の花といわれるラフレシアをはじめ様々な動植物を見ることができる。この日は熱帯ジャングルを満喫できた貴重な半日となりました。（井口さん記）

ペナンはインド洋に浮かぶ美しい島で州都のジョージタウンは世界遺産でもあり、「東インド会社」の貿易基地として栄えた面影を残した活気溢れる町。女子組二人にはホテルに丸岡夫人と Jamie が迎えに来て、まず朝の中国人マーケット散策。早速おやつに飲茶をいただきタイを起点に旅をしている日本人に会う。現在も住民がいる水上生活地域を見学して、街のいたるところにあるウォールアートをブラブラ歩きながら鑑賞。屋台でココナッツジュースを一緒に飲む･･･甘いココナッツが喉に心地良い。富を築いた中国人の豪邸だった。

ココナツジュースを仲良く

「Straits Chinese Jewelry Museum」を見学し、昔の大金持ちの生活を体感。昼ご飯は「YENG KENG HOTEL」で中国料理とイギリス植民地時代の西洋料理が融合した料理

をいただく。中国人の持ち物だった HOTEL の室内も見学させていただく。その後地元スーパーへ。（宮澤さん記）

女子会ランチ

それぞれのグループがホテルへ帰り、全員が揃ったところで夕食に向かう。地元に詳しい Jamie の案内で屋台が集まっているホッカーセンターに行き、マレーシア料理をいただいた。男性陣は、出発前に仕入れたウィスキーをホテルの部屋で飲んでいるにもかかわらず、さらにビールをグビグビ飲み、お皿に盛られた何種類もの料理が瞬くうちに片付いていく。丸岡夫妻、それと Jamie を加えて総勢 10 人での食事は、食べ物の美味しいことに加え、楽しい会話で盛り上がり、時間の経つことの早いこと。

食事を堪能した後は極楽寺へ案内してもらう。中華系の人々がお祝いする旧正月（今年は１月２９日）の前後４週間、このお寺は非常に煌びやかな電飾がされており、わび・さびを宗とする日本のお寺とは大きく異なった趣を感ずる。お寺には数多くの仏像が置かれ、それぞれの温和な表情を眺めてパゴダの頂上まで登って行った。てっぺんまではおよそ５階建てに相当する階段を登ることになる。車を降りて駐車場からを考慮すると、８階建て以上に相当する階段を登ることになりほろ酔いの体にはきつい。てっぺんに登ると、荘厳な大仏が幻想の如く現れる。外にでると夜風が火照った顔に当たって心地よい。今夜もゆっくり寝られそうだ。

三日目

この日のゴルフはお昼からの予定で、朝はゆっくりと過ごすことができた。ゴルフ組以外の４人は昨日同様に丸岡夫人と Jamie の案内で観光、買い物へ、午前中はのんびりできるゴルフ組のお見送りを受けてホテルを出発した。

山の中にある南国のフルーツが栽培されているトロピカル・フルーツファームへ。ツアーガイドの説明を聞きながら農場内を散策し、フルーツとジュースを食べながら品評会。園内では専門の案内人がついて様々な熱帯果樹を、主に漢方、薬膳といった方向から説明を受けた。案内が終われば、休憩所で 100%のジュースが一杯ふるまわれ（目の前で希望するフルーツをミキサーにかけてくれる）、トロピカルフルーツがビュッフェスタイルで食べ放題、冷たいマンゴージュースは最高！でした。その後バティック工房を見学。「型枠」という用語が日本と同じでビックリ。売店でろうけつ染めの布やクラフトを物色。ジョージタウンに移動して「茶珈琲館」でランチタイム。食後お店の女主人に中国茶のお点前をいただく･･･美味しいお茶と茶器に感激。（井口・宮澤さん共同記）

午後は女性組だけで町のバスに乗りショッピングモールのはしご･･･大満足でした。行く先々で Jamie のお友達に会い歓待していただき、丸岡夫人にはペナンにいる間中私達の我儘なお願いにも快くお付き合いし

ていただき、いつも優しい笑顔で対応していただきました。（宮澤さん記）

午後は女性陣と別れ、Jamie に世界遺産であるジョージタウン界隈を案内してもらった。ジョージタウンは昔からの古い町並みと近代の高層ビルの併存するのが面白い。

Jamie のガイドで

そんな中で印象的だったのが２件。一つは Jamie が鍛冶屋に連れていってくれたこと。三代続く古い鍛冶屋だが後継者がいなくて当主で工場を閉じるという。主に錨を作ってきたようで、大小さまざまな錨が並んでいた。片言で、日本の刀鍛冶の話をしたら、年寄りたちが（といっても我と同年配だが）喜んでくれた。もう一つは「海の民」の集落に案内してもらったこと。ご存じだろうかマレーシアやインドネシア、タイなどには漂海民、バジャウなどとも呼ばれる海上に家を建てて暮らす人たちがいることを。海の只中に杭をたて、家を建てて（杭上家屋という）生活する民族だ。思ってもみなかったが、この集落に Jamie が案内してくれたのだ。もちろん今は観光地化していて、その家屋はほとんどがレストランや土産物屋になってしまっているのだが、よく見ていくと年寄りたちが路地で憩っていたり、まだ昔の生活ぶりを忍ぶ残像が垣間見えたのだ。港の沖合には、古いジャンクや大型のタンカーが浮かんでいる。ここでも新・旧の共存だ。この日のこの２件は、今回の旅の大きな収穫のひとつとなった。旅はハプニングがいい！（井口さん記）

今日はペナン島内にある Penang Golf Club でプレーするので、車で 30 分程度の場所にあり、10 時半ころホテルを出る。クラブへ着いて練習場へ行き 100 球ほど事前に打つ。打席に置いてあるマットにはゴムのティーが無い。これではドライバーの練習ができない。聞くとゴムのティーは別に販売しているとの事。丸岡さん以外の 3 人はそれを購入しなければならない。その代わりと言うわけではないが、打席の前方にある芝生からは、フェアウェイウッドとアイアンの練習が可能である。

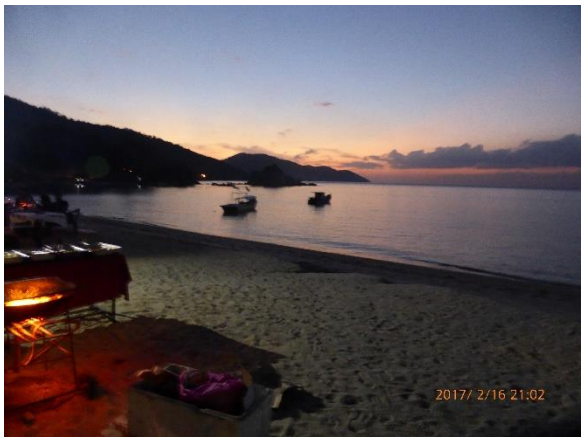
コースへ出る前に昼食を済ませる。このコースは、プロのアジア選手権が開催されたことのあるチャンピオンコースで、メンバーの同行が無いとプレーできないコースである。メンバーである中華系マレーシア人で丸岡さんの友人二人に予約してもらい、一緒にプレーに加わって頂いた。さすがにチャンピオンコース、トリッキーで距離もあり大変に難しい。グリーン上も傾斜があって、オンしたと云えども簡単にはホールアウトできない。それでも一緒に周って頂いたお二人の方に親切にされ、楽しくプレーすることができた。

昨日と同様に全員が揃ったところで夕食に向かう。この日は丸岡さんに予約を入れて頂いた海岸でのバーベキューを楽しむ。レストランへ向かう前に、丸岡さんが現在居住されているコンドミニアムへ案内頂いた。全部で何世帯あるだろうか。20 階ほどの建物が何棟もあり、入口にはガードマン

がいる。プール、テニスコートもあり、居住している人は自由に利用ができる。丸岡さんの借りているのは12階の 3LDK で、ベッド、テーブル、応接セット、冷蔵庫など当面生活に必要な設備は備え付けられていて、着替えの衣服を用意するだけで翌日から生活ができるとの事。家賃も物価も安いので、年金で十分に生活をエンジョイできる由。ロングステイを検討される方は、一度丸岡さんと相談されると良いと思う。

丸岡さんが借りているコンドミニアム

たそがれどきの海岸には既にバーベキューの用意がされており、冷えたビールで乾杯して後、肉、魚貝類がお店の人によってサービスされる。次々に出されるビール、肉魚を飲み、食べしている間、日がだんだんと暮れ、そのうちに満天の星空が現れる。新百合ヶ丘辺りでは街灯によりこれだけの星を見る機会はなかなか無いが、子供のころ田舎で見た様な満天の星空を楽しむことができた。お腹も膨らんでくると、Jamie がスマホで日本のカラオケを入手、いつの間にかカラオケ大会になってしまう。参加者の年齢層から想像できる通りナツメロが中心である。今回は、あ・そうかい@カラオケのリーダーである斎藤さんも参加されていて、次回のツアーの際はペナン島で本格的なカラオケ大会の開催が期待できそうだ。



浜辺でのバーベキュー

食後は全員揃って近くのナイトマーケットへ行く。全部がコピー品であるが、ロレックス、ラドなどの時計、ルイ・ヴィトン、プラダ、エルメスのバッグ類、レイバンのサングラス、なんでもござれ。売る人は非常にアグレッシブに「安いよ、安いよ」と日本語で声を掛けてきて、何としても売ろうとする。最初は半値から交渉して、7 割程度が落としどころとか。買わないまでもひやかして歩くだけでも楽しい。

四日目

楽しい時間は過ぎるのが早い。ペナンで過ごす最後の日になった。今日は全員そろって行動する。9 時前にチェックアウトして、Jamie の車とアレンジした貸し切りミニバン 2 台に荷物を積み込み、ペナンを発つ夕方まで一緒に観光に出かけた。

最初にヨットハーバーへ行った。カタマラン（双胴船）ヨットで世界一周された佐藤さんの UMINEKO が係留されていて、そこへ案内して頂いた。佐藤さんは退職して後、2011 年に UMINEKO を購入され、世界一周の後気ままに日本とペナンを行き来しているとの事。ペナンでは多くの日本の人と交流されていて、丸岡さんの紹介でヨットへの案内が実現した。学生時代にヨット

部の経験を持つ植木さんと田島には大変に興味を注ぐイベントとなった。その後涅槃のお寺、砲台跡、時計台、中国の革命家孫文の記念館、世界遺産に登録されているジョージタウンを訪れた。

双胴船 Umineko

昼食は、1881 年に建造された古い中国様式のホテルで中華料理を。Jamie は、このホテルのオーナーとも旧知の仲で、宿泊施設の中を案内頂く。今でも現役の施設で、一泊ワンルーム 2 万円程度で宿泊可能とのこと。次々と美味しい料理を堪能した後、この日に丁度誕生日を迎えた中島さんのために、Jamie がバースデーケーキを準備してくれていた。中島さんにとっては思い出深い誕生日となったことであろう。昼食後、昨日極楽寺から幻想的に見えた観音大仏、そして蛇寺を訪れた。渋滞を避け、少し早めにペナン空港へ送ってもらい、KL を経て帰国の途についた。

砲台跡にて

ペナンの街を望んで

豪華な中華ランチのスタート

前菜

子豚の丸揚げ

中島さん、誕生日おめでとう

４．費用

飛行機とホテルのみを組み合わせた Air & Hotel（エアホ）を JTB から購入、その費用が一人当たり¥72,400。ペナン空港からの移動も含めて、全て自分たちで賄う必要がある。このためグループ全体で使う費用を事前に徴収した。この総額は¥155,000。今回は、ゴルフ組はクラブも持参したので、成田空港まで斎藤さんと田島の車２台に皆乗り合わせて成田空港まで往復した。このための高速代、駐車場費用、ペナンにて一緒にした食事代をここから支出した。これで大まかに一人 10 万円弱となる。個別活動に掛かる費用、ゴルフ代、観光費用、ショッピング等はこれらには含まれない。ゴルフ代は往き帰りの交通費、昼食代を含めても２回で¥15,000 弱であった。共用費用は一万円強残額があり、参加メンバーで反省会を催す時に供出することにしている。

５．まとめ

最初に述べておきたいことは、何事もなく無事に帰宅でき第一の目標は達成できた。後になって分かったことだが、前日の 2 月 13 日午前９時に、クアラルンプール空港で、金正男が暗殺されたニュースを聞き、翌日の夕刻、同じ場所を通過していたことを知ってびっくりした。全くそんな兆候を感じることは無かった。ともあれ全員事故、体調不良などなく、楽しい思い出だけ持ち帰ることができたことは、幹事役として何にも代えがたい喜びである。この度の旅行は、ペナンに滞在されている丸岡夫妻、その友人の Jamie がいればこそ成立した企画であった。現地事情に詳しい方々の協力により、通常のツアーでは行けない様な場所を訪れることができたり、食事を味わうことができたりした。今回の参加人数は総勢７名で丁度適当であったと思う。もっと多い人数になると、受け入れる丸岡さんにとっても、ツアーのまとめ役への負担も大きくなると思われる。さらに、今回参加されたメンバーは、全員気さくで協力的であり、幹事役としても負担を感じることなくツアー終えることができた。参加されたメンバー、丸岡夫妻、Jamie、協力いただいたすべての人に感謝！感謝！

今後いつか、あ・そうかいで同じような企画で海外へのグループツアーが行われることがあれば、この記録が参考となれば幸いである。